

第 23 回 練馬光が丘病院 運営連絡協議会 議事録

日時：令和 5 年 11 月 9 日（木）13 時 30 分～14 時 30 分

会場：練馬光が丘病院 2 階講堂

出席者：高橋委員、関委員、外山委員、沢村委員、池尻委員、浅田委員、伊澤委員、古賀委員、富田委員、内田委員、光定管理者、吉田副管理者、平澤事務部長

出席者（Zoom）：河原委員、今井委員

議事

光定管理者より、資料に基づき病院の状況について主に以下のとおり説明があった。

理念・基本方針は開設当初から変更はない。2018 年協議会で検討されたが継続となった。

新病院の課題としては、脳卒中对応強化、がん診療体制の強化、新興感染症対策、診療の質や患者サービスの向上が挙げられる。

新たな診療科の状況は以下の通り。血液内科は無菌室を増やす工事をした。歯科口腔外科は歯科開業医が対応できない症例や口腔がんに対応している。ロボット支援手術は現在の直腸がん、結腸がん、前立腺がんに加えて胃がん、尿管がんが開始となる予定である。放射線治療部門は、本年 9 月から件数が増加傾向にある。脊椎外科は新規医療機器を導入している。リハビリテーション病棟は満床に近い。コロナ感染症への対応は一部変化している。

2023-26 年度 中期計画における 4 つの柱について

- 1 医療安全や感染対策を強化、診療の質の改善、デジタル推進
- 2 救急車受入増加、脳卒中診療体制、がん診療体制の強化、手術件数、循環器センター手術例増加、分娩数の増加
- 3 病床稼働率現在 83～84% 23 年度に 85% としたい。
- 4 働き方改革 人材の確保と育成に努める

質疑事項

（委員）地域への医師の派遣とは具体的にはどんなことか。

（病院）地域医療振興協会として、医師を神津島診療所や奥多摩古里診療所、他県などに派遣している。

医事課、田中次長より資料①～③について説明があった。

質疑事項

(委員) 入院患者数と外来患者数はコロナ期の前後でどう変化しているか。

(病院) 入院患者数は、コロナ前は旧病院で病床数が少なかったこともあり、現在はコロナ期前よりも大きく増加している。外来患者数は2020年に減ったが、今は以前を上回っている。

(委員) 地下鉄駅を降りてからの案内がわかりにくい。

(病院) 地下鉄駅からの経路は旧病院の方がわかりやすかったと思う。もう一度見直したい。

(委員) 入院に比べ外来の伸び率が低い。要因としては、機能分化によるものなのか、人口動態によるものなのか、病院ではどう分析しているか。

(病院) 地域医療支援病院ということで入院稼働を上げようとしている影響がある。高齢化による影響も多少あるかもしれない。

(病院) 練馬区からのご質問に、なぜ大腸がんの登録件数を挙げているかとあったが、これは当院が東京都がん診療拠点協力病院を目指す中で、要件充足に一番近いものが大腸がんであるためである。

医事課、田中次長より資料④～⑨について説明があった。

質疑事項

(委員) 区外からの患者が増えている印象があるがどのように考えているか。

(病院) 練馬区の近隣病院が三次救急になったことにより、当院に二次救急として来る方が増えている。また当院が提供する高等な医療を求めて広範囲から患者が増加している。軽い症状についてはかかりつけ医に戻す方針である点も挙げられる。

(委員) 救急車でない救急の件数が減っているが、地域ニーズに応えられているか。

(病院) 救急車による受入れが大幅に増加している。当院は救急車の二次救急を中心とする方針で、一次救急も積極的に受け入れているが、一次救急の患者数はコロナで大きく減り戻っていない。選定療養費の影響もある。救急要請が競合した場合は練馬区内を優先している。

医事課 田中次長より、資料⑩について説明があった。

質疑事項

(委員) 周産期連携病院の指定を目指す話はどうなっているか。また、練馬区セミオープンシステム、練馬区産後ショートステイの実施状況についても知りたい。

(病院) 2020年5月に新型コロナのクラスターが発生し、一度すべてのお産の受入が中止となり他院に紹介する等で大きく減った。その後に受入は増えてきており、もう少し増えたら指定を目指せると考えている。練馬区セミオープンシステムは、現時点では回答できる数字がないが、講演は昨年も行っている。産後ショートステイは、練馬区在住者を中心に毎月受け入れており、他の区からの受入も開始している。

(委員) 精神身体合併症の受入れについての考え方を聞きたい。

(病院) 近隣に大規模の精神科単科病院がある中で、当院も積極的に受け入れている。

地域連携室 工藤室長より、資料⑪について説明があった。

質疑事項

(委員) 区民講座を充実してほしい。また、新型コロナの経験を生かしたビジョンがあれば聞きたい。

(病院) 区民講座は今年度の4～6月に集中していたが、今後も積極的にやっていきたい。新型コロナを生かしたビジョンとしては、まず第8次医療計画があるが、この中で新興感染症への対応が求められており、当院の災害拠点病院としてのノウハウを生かせると考えている。国や東京都では、大きな施設ではなく100床程度の臨時的施設を用意し、チームを組んでスタッフを派遣しパンデミック等に対応する方針である。

(委員) 4つの重点医療については、病院の目標値を挙げていただくと、目標に対する実績ということで分かりやすい。

(委員) 回復期リハビリテーション病棟の今後の展開について、旧病院の後施設との連携など、病院の考えがあれば聞きたい。また、働き方改革と医療の質向上という点で、看護師と医師との職務のシェアである特定行為研修について考えを聞きたい。

(病院) 回復リハビリテーション病棟は、国の方針として 2 年後に 45、46 床程度まで病床比率を減らさなければならず、今後検討の必要があると思っている。

旧病院後の医療機関は療養型の病床と聞いており連携していければと考えている。

タスクシェアについては、医師数と看護師数が増加していく中で患者の高齢化もあり介護関係の雇用を進めている。また NP (診療看護師)、NDC (特定ケア看護師) を常勤で 4 名ずつ雇用しており、NP、NDC 研修も行っている。救急救命士は 3 名雇用した。NP、NDC については全国に先駆けてマニュアル作成・システム構築を行い、全国から見学や問い合わせが来ている。増員も考えている。

(委員) 関東大震災から 100 年を迎えた。地域のリーダーの高齢化が進んでおり、地域と連携した地震対応訓練をぜひ今年度中に実現してほしい。きらきらコンサートもぜひ再開してほしい。ICT (地域医療ネットワークシステム) は新規登録希望の声をかなり聞く。

(病院) 災害対策についてはコロナにより縮小せざるを得ない状況にある一方で、コロナによりデジタル化は進み、情報収集のスピードが速くなった点もある。他院でトリアージに関する訴訟が起きており、成り行きを見ながら当院も対応していきたい。コンサート再開、ICT 増加についても前向きに考えたい。

次回第 24 回は 2024 年 5 月に開催予定とし、閉会とした。

以上